

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会との関係が良好に保たれる環境を築き、安心、自身、笑顔のあふれるその人らしい充実した生活を送って頂けるよう、思考と試行を繰り返す。	その時々にて、受け手にとって理解しやすい具体的な表現となるようつくりあげていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者一人ひとりの生活・生き方を尊重し、笑顔や自身を大切にすることを理念とし、申し送りや業務会議等議題として取り組んでいる。	定期的に理念を確認する場(会議やミーティング等)をつくる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来所者の目に付き易い居間入り口ドア付近へ明示している。パンフレットや契約書に明示し、説明を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内の掃除、草取り等の取り決めや行事に参加している。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の掃除、草取り等の取り決めや行事へ参加をしている。	町内の掃除、草取り等の取り決めや行事には徐々に参加していく予定があるので、そうした機会を活かしてホームへの理解を広めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の代表の方や行政担当の方々などと運営推進会議を通じて、何か貢献できないか探っている。年2回の自治会のゴミ拾いには参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の評価を会議の際に議題としてあげ、意識付けから取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を定期的に行い、行事や健康状況を報告している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者が介護保険運営協議会委員として参加している。また、市の介護保険課より定期的に相談委員が来てくれて、利用者の話を聞いてくれている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員各自による自己学習の範囲となっている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や申し送りの際に、議題・提案として挙げられている。外部研修へ参加する機会を設けている。高齢者虐待防止法関連法について学び、虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>電話相談、Fax(書面)、契約前の利用者宅訪問、ホーム見学・相談、等の機会を設け、十分な説明を行い理解・納得となるように努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者ご意見をご家族へ電話・面会時等適宜お伝えしている。苦情受付先についてご家族へお伝えしている。又、ホーム内へ掲示している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月全てのご家族様へ、ホームでの生活の様子や行事の内容について、個別にお手紙と写真を送りお伝えしている。又、適宜ご家族へ面会時や電話を利用してお伝えしている。薬期限のお知らせ等、定期的に連絡できる場面を設けている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者ご意見をご家族へ電話・面会時等適宜お伝えしている。書類を作り、頂いた苦情を職員間で共有できるようにしている。苦情受付先についてご家族へお伝えしている。又、ホーム内へ掲示している。苦情受付窓口の1つとして、市役所の介護保険課へお願いをしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月フロア別の業務会議を開き、運営に関する意見や提案を広く意見を取り入れられるように努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望に柔軟な対応が出来るよう、必要な時間帯に職員を確保する為の調整することが出来るよう、予定勤務表を作成し、勤務の調整に努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>(管理者・計画作成担当者を除く)常勤職員は他フロアへの移動がある。非常勤職員については、極力移動はしないように努めている。但し、利用者との関係が良好に保たれない場合はこの限りではない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
」			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	千葉県、千葉県福祉協議会、全国グループホーム協会の研修や講習へ参加出来る機会を設けている。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	ホームリーダーは地域のケアマネ研究会に参加している。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員の休日確保。夜勤者の連続勤務の時間短縮。	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	ユニットごとに責任者を中心とした組織の構築をすすめている。	
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	本人との信頼関係を築くことが出来るよう、適宜、利用者宅を訪問する機会をつくり、受け止められるよう対応を検討をしている。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	ご家族との信頼関係を築くことが出来るよう、適宜、ご家族宅への訪問や、ホーム来所の際に話を聴く機会を設けている。電話等の活用もしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の相談内容や提案をよく聴き、基本的な支援方法をご家族確認の上、実施している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族に、その方独特のクセやコツについてアドバイスを頂き徐々に馴染めるような工夫をしている。お茶や食事の時等、日常の中にてさりげなく支援を提案し馴染みながらサービス利用できるよう工夫している。他入居者へ声かけをして一緒に話をし馴染みながらサービス利用出来るように工夫している。個別に居室にてじっくり話をする機会を設けることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	献立作成を一緒に行い、お互いに提案や助言を出し合い支えあう関係を築いている。祝祭日等暮らしに根付いた風習や、地域の慣わしの話をすることが出来る場をさりげなく演出し、支えあう関係を築いている。外出時に自然にふれる機会を設け、草木花や生き物の名前等を学びあう関係を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事参加や受診対応時を通じ、ご本人の日頃からの様子を伝え、一緒に支えていく関係を築いていけるよう努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族よりお話を伺い、申し送りや書面によりスタッフ間にて情報を共有し、ご本人とご家族との関係の理解に勤めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から収集したことや生活歴等を活用し、ご本人へ話題を提供している。ご本人の訴えをご家族へ伝えている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	炊事・洗濯・掃除・買い物・散歩等、相性に配慮した上で、利用者同士が関わり合い、支え合えるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係を断ち切らないつきあいを大切にする姿勢を、大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り勤めている。本人の日常の会話の中から意向の把握に努めている。本人本位となるよう課題に対して日頃から様子を観察し記録をつけている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族との会話の中から、これまでの暮らしについての把握に努めている。ご家族から生活歴表等書面にて情報提供をいただき、暮らしの把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事量・水分・排泄・入浴・服薬・バイタル・外出・ケース等の記録書類や、口頭での申し送りにより、現状を総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題について、ご家族へ連絡をとり、以前からの暮らしの習慣やクセ等の情報提供をいただいている。職員へ会議の際、具体的な介護方法について提案をうけ、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		認知症ケアで実績のあるセンター方式の記録方法の活用を検討中。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月評価を行い、適宜見直しがなされるようにしている。状態の変化にその都度対応する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特変事項や食事量・水分・排泄・入浴・服薬・バイタル・ケース等の記録書類、又、口頭申し送りにより情報を共有し介護計画へ反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別買い物、理髪店送迎、歯科や病院受診代行、かかりつけ医へホームでの状況提供など。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア参加者が定期的に、又、適宜ホームへ来所し、本人の楽しみや安心につながるよう支援している。		毎月、絵手紙ボランティアさん、読み聞かせボランティアさんに来て頂いている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望に応じ柔軟に対応できるよう努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて相談をかけているが、地域包括支援センターの動向にあわせている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族へ医療機関への通院をお願いしている。ご本人やご家族の納得される医療機関への受診を勧めている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご家族へ、専門の病院や専門医の在籍している病院を紹介している。ご本人の認知症専門のかかりつけ医へ、状態の説明等情報提供をホームが代理にて行い、医師との関係を築いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特になし		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族の意向を優先している。情報交換や相談について、書類・口頭にて積極的に対応することが出来るよう備えている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を優先している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族の意向を優先している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族からの情報は勿論、入居前に福祉サービスを利用されている場合、その事業所からもサマリー等の情報をいただけるよう働きかけている。ホームから別の場所へ移り住む際は、ご家族、引越し先施設・病院担当者へホームでの生活状況、サマリー、今後の留意点をお伝えしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけは、砕けすぎた言葉使いにならないよう、丁寧語を基本としている。排泄の声かけや失敗行動に対し、羞恥心に配慮した声かけを心がけている。記録等個人情報は、事務室内専用収納棚にて、施錠管理をしている。</p>	<p>一般的な接遇について、外部研修へ参加する機会を設け、施設内勉強会へつなげられるよう検討したい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の食事献立・着る衣類・買い物や外出への参加希望・お風呂の順番等について、利用者の希望・意見を組み入れ決定するよう勤めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床時間や日中過ごす場所などになるべく制限をなくし、一人ひとりのペースを尊重している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>職員による援助や家族援助によりわかる限り支援し、それぞれの理美容店とは馴染みの関係である。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食べたい料理や食材選びを、入居者と話しをしながら行っており、一人ひとりの好みや能力に応じ、買い物や調理・盛付け・配下膳・食器洗い・片付け等を一緒に行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>生活に支障をきたさないと考えられる範囲にて、一人ひとり個別にてお酒・タバコ等の支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>ケース・排泄・食事・水分記録表等を用い、一人ひとりの排泄リズムやサインを把握し、さりげない声かけによりトイレでの排泄習慣維持の支援をしている。</p>	
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日や時間帯は、利用者の希望により利用することが出来るよう、入浴時間帯を昼過ぎから夜まで設けている。入浴時間は個々により異なり、概ね自由である。入浴の順番を入居者同士で決められるよう支援している。</p>	
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>眠れない原因を、ご本人の日中の活動状況や会話等から想定し、主にコミュニケーションにより、安心して眠ることのできる環境設定作りを心がけている。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>家事(料理、掃除、洗濯、買出し、戸締り)や、楽しみ事(外出、買い物、散歩)の支援を日常的に行っている。</p>	
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は、職員が行っている。お金を必要とする場面では、積極的なコミュニケーションを心がけ、金銭管理について『安心感』を支援している。</p>	
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物や散歩等外出援助を積極的に行っている。近所を中心として、市内の何店かを馴染みの場として、マンネリ化せず外出を楽しめるよう支援している。</p>	<p>ボランティア参加者を募集し、入居者の外出援助や会話が日常的になるよう取り組みたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>ご本人のご希望を日頃より気にかけておき、ご家族へ電話や来所時にお伝えする支援をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話を希望された時、電話の取次ぎの援助を行い、電話の支援をしている。会話の内容や入所者の状態により、居間・居室・事務室での電話使用を区別している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員は、面会簿記入やうがい手洗い場所や居室等への案内を行い、来訪者が迷いにくいよう支援している。入居者の近況を伝え関わりやすくなるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束専門課程研修』受講終了者を中心に、すべての職員が日々の業務の折に確認しあい、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中帯は、玄関や居室に鍵をかけないケアに取り組んでいる。夜間帯においては、一般家庭と同様に、防犯上から玄関施錠を実施している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期巡視については、日中は最大8回/日、夜間帯は4回の取り組みを実施している。職員は利用者を介助する際、職員同士、又、利用者の居場所を把握することが出来るよう声のかけあいをしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共用場所における危険物(刃物、火の元等)については、特定の利用者の症状から、一律になくしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	発熱時、けが、行方不明、火災等の緊急時対応マニュアルを作成し、緊急時に目のつきやすいところへ備えてある。ホーム内研修の実績がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防が主催する救急講習を受講し、マニュアル作成している。緊急時の応急処置について、外傷・炎症の対応実績はあり、又マニュアルにのっとり通院援助・家族連絡等の実施をしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生の状況、時間により対応できないこともある。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族から本人のクセや予防のコツ等について情報収集を行い、対応策を話し合っている。転倒や徘徊、混乱等個別のリスクについて、ホーム内での状況をご家族へ伝え、原則的な支援方法やホームのケアの説明・提案をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入浴・排泄介助時の観察により、異変の発見に努めている。日々の様子観察により、体調の変化や異変の発見に努めている。一日二回を基本としたバイタルチェックの実施により、体調の変化や異変の発見に努めている。発見後、口頭申し送りや、記録等書面にて情報を共有している。適宜、ご家族へ電話にて連絡をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員を対象として、薬の初回の処方や処方の変更・中止時において、書面や口頭による申し送りにて目的・副作用・用法・期間・観察ポイント等を伝達している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	家事全般や散歩、体操等、日常的に身体を動かし便秘予防に努めている。又、繊維質の多い野菜や、果物、乳製品により栄養面からの便秘予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの口腔状態や力に応じ、毎日の2回の歯磨きを実施している。職員管理により、入れ歯洗浄を毎週実施している。協力歯科医療機関へ口腔ケア受診を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士を中心に、入居者の意思を尊重しつつ極端な偏食を予防し、必要栄養量や水分量を確保することが出来るよう努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外部からの人(職員・ご家族・来客・他)の出入り時(出勤・訪問時・外出後等)に、うがい手洗いを徹底するようにしている。全国GH協会の主催する『感染症予防対策指導員』受講修了者を中心に、感染症予防に努めている。マニュアルを作成し、共用部分の消毒、毎日のトイレ掃除・消毒の実施、洗面所の紙タオル設置等、対策を講じている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手拭はペーパータオルを使用し清潔の維持に努めている。アルコールスプレーを常時設置している。まな板は毎日消毒液にて付け沖消毒をしている。食器布巾は漂白した物を都度、使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関までは穏やかなスロープになっており、スロープに沿って芝生と花壇があり、入居者と共に植物の手入れをして、家庭の庭の雰囲気を感じられるよう努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースである食堂はテーブルやイスの使い勝手が良く調和がとれている。浴室・トイレは明るく、車椅子移動が可能であり使用しやすい。居間には、利用者による季節を感じる作品が飾られている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの趣味への働きかけ、読書の好きな利用者へ本や新聞・雑誌を提供している。居間へいくつかの飲み物を用意している。入居者間の会話のきっかけづくりを職員が声かけしている。等々一人ひとりの居場所作りの支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(ご自宅で使っていた)使い慣れた家具が置かれ、写真を飾ったり鏡台の前に化粧品を置くなど、個人個人が状態に応じ事故に至らないと思われる範囲にて、自由に自分の好きなものを配置している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	新鮮な空気の循環の為、常時換気を行っているも、空調管理に留意し、衣類一枚分くらいの着脱の範囲にて適温維持をしている。入居者個別の活動量や訪問者への臨機応変な温度調節に配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室には手摺りが設置されている。物干し竿は入居者が使用しやすいように高さの調整をしている。混乱されることが考えられる場所・物品類に貼紙や説明書きをしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	消耗品の購入はご本人に選んでいただき愛着が持てるように支援している。ホーム内の貼紙や説明書きは個人別に理解し易いものになるよう心がけている。私物や共用物の区別に物品へ名前を記入している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居間に植物を飾り、入居者が手入れすることの出来るようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者間、利用者と職員間、職員間にて名前呼び合える関係作り。
- ・ご家族の来所しやすい雰囲気作り。
- ・入居者一人ひとりが他入居者を共同生活者として受け入れ、喜怒哀楽を共有することが出来るよう、健康状態や生活情報を出来る限り伝える。